

## 2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 43113 単位数 : 4

|           |          |       |       |
|-----------|----------|-------|-------|
| 科目名       | 経済学史     | 科目責任者 | 坂本 幹雄 |
| 課題と試験担当教員 | 坂本 幹雄    |       |       |
| 履修方法      | T テキスト学習 |       |       |
| ナンバリング    | CECON353 |       |       |

## ■ 科目概要

経済学300年の歴史を学習します。

17世紀の経済学の形成期から始まって20世紀の経済学に至るまでの科学史としての経済学を学習します。

経済学の持っている多様性と相対性、その豊かさと広がりそして深さを知ることができます。

- (1)17世紀の重商主義の経済諸学説
- (2)18世紀の自由主義経済学の系譜
- (3)18世紀経済学の創始者たちの経済学
  - ①フランソワ・ケネーの経済学②J. スチュアートの経済学
- (4)アダム・スミスの道徳哲学と経済学
- (5)古典派経済学①リカードウの経済学②J. S. ミルの経済学
- (6)社会主義思想とマルクスの経済学
- (7)19世紀の限界主義経済学ークールノーの経済学
- (8)限界革命の経済学
  - ①ジェヴォンズの経済学②メンガーの経済学
- (9)フルラスの一般均衡論の経済学
- (10)マーシャルの経済学
- (11)歴史学派と歴史学派の経済学
- (12)ケインズのマクロ経済学
- (13)20世紀前半の経済学

## ■ 到達目標

- (1)経済学史の対象・方法・意義を理解すること。
- (2)経済学の多様性・相対性を理解すること。
- (3)各世紀の経済学の概要を理解すること。
- (4)経済学の主要古典の学説の概要を理解すること。
- (5)好きな経済学者ができること。

## ■ 科目の計画・内容

| 学習範囲<br>該当する章など         | 学習内容  |
|-------------------------|---|
| まえがき<br>新版に際して<br>学習指導書 | (1) 経済学史の通史<br>(2) 経済学史の伝記的アプローチ<br>(3) 経済学史の特徴<br>(学習指導書)<br>経済学の語源的説明 |
| 第1章                     | 経済学史の特徴<br>第1節 経済学史の背景・課題・方法<br>第2節 経済学史概観                              |
| 第2章                     | 重商主義の経済諸学説<br>第1節 重商主義の特徴<br>第2節 ウィリアム・ペティの経済学                          |

| 学習範囲<br>該当する章など | 学習内容   |
|-----------------|--|
| 第3章             | 経済学の形成期<br>第1節 自由主義経済学の潮流<br>第2節 カンティロンの経済学<br>第3節 ヒュームの文明社会論と貨幣論                                |
| 第4章             | ケネーの経済学<br>第1節 ケネーの生涯と著作<br>第2節 ケネーの『経済表』  |
| 第5章             | ステュアートの経済学<br>第1節 ステュアートの生涯<br>第2節 『経済の原理』の構成と意図<br>第3節 『経済の原理』第1編<br>第4節 『経済の原理』第2編<br>第5節 流通理論 |
| 第6章<br>学習指導書    | スミスの経済学<br>第1節 スミスの生涯と著作<br>第2節 『道徳感情論』<br>(学習指導書)<br>利己心・人間愛・良心                                 |
| 第6章             | スミスの経済学<br>第3節 『国富論』の目的と構成<br>第4節 『国富論』第1編<br>(学習指導書)<br>利己心・人間愛・良心                              |
| 第6章<br>学習指導書    | スミスの経済学<br>第5節 『国富論』第2編<br>第6節 『国富論』の財政論<br>(学習指導書)<br>スミスの「見えざる手」                               |
| 第7章             | リカードウの経済学<br>第1節 古典派経済学の概要<br>第2節 リカードウの生涯と著作<br>第3節 『経済学および課税の原理』                               |
| 第8章             | J. S. ミルの経済学<br>第1節 ミルの生涯とその時代<br>第2節 『経済学原理』  |
| 第9章             | マルクスの経済学<br>第1節 社会主義思想の潮流<br>第2節 『資本論』－労働価値説と剰余価値説   |
| 第9章             | マルクスの経済学<br>第2節 『資本論』－労働価値説と剰余価値説<br>第3節 『資本論』－資本の蓄積と産業予備軍                                       |
| 第10章            | クールノーの経済学<br>第1節 19世紀の限界主義経済学<br>第2節 クールノーの生涯と著作<br>第3節 『富の理論の数学的原理に関する研究』－クールノーの数理経済学           |
| 第10章            | クールノーの経済学<br>第3節 『富の理論の数学的原理に関する研究』－クールノーの数理経済学  |
| 第11章            | ジェヴォンズの経済学<br>第1節 ジェヴォンズの生涯と著作<br>第2節 『経済学の理論』   |
| 第12章            | メンガーの経済学<br>第1節 メンガーの生涯と著作<br>第2節 『国民経済学原理』<br>第3節 『経済学の方法』－メンガーの方法論                             |

| 学習範囲<br>該当する章など | 学習内容  |
|-----------------|---|
| 第13章            | ワルラスの経済学<br>第1節 ワルラスの生涯と著作<br>第2節 『純粹経済学要論』－ワルラスの一般均衡論                |
| 第14章            | マーシャルの経済学<br>第1節 マーシャルの生涯と著作<br>第2節 『経済学原理』                           |
| 第14章<br>学習指導書   | マーシャルの経済学<br>第2節 『経済学原理』<br>(学習指導書)<br>貨幣数量説                          |
| 第15章            | 歴史学派と制度学派<br>第1節 歴史学派<br>第2節 ヴェブレンと制度学派<br>第3節 ウェーバーの社会科学方法論－価値自由と理念型 |
| 第16章            | ケインズの経済学<br>第1節 ケインズの生涯と著作<br>第2節 貨幣論－基本方程式                           |
| 第16章            | ケインズの経済学<br>第3節 『一般理論』－ケインズの貨幣的経済学<br>(学習指導書)<br>ケインズの自己利子率論<br>牡牛と熊  |
| 第16章            | ケインズの経済学<br>第4節 『一般理論』－ケインズの経済思想と経済政策<br>(学習指導書)<br>ケインズ「自由放任の終焉」     |
| 第17章            | 20世紀前半の経済学<br>第1節 ヴィクセルの累積過程<br>第2節 ヒックスの『価値と資本』                      |
| 第17章            | 20世紀前半の経済学<br>第3節 ヒックス＝ハンセンのIS－LM分析                                   |
| 第17章            | 20世紀前半の経済学<br>第4節 ハロッド＝ドーマーの経済成長論                                     |
| 第17章<br>学習指導書   | 20世紀前半の経済学<br>第5節 シュンペーターの分析とヴィジョン<br>(学習指導書)<br>ジョン・ロビンソン「経済学の第2の危機」 |
| まとめ             | 試験出題範囲を確認のうえ、演習問題学習   |

## ■ 学習方法・評価

| 種別   | 評価基準   |
|------|--|
| 試験   | (1) 学問としての経済学史の理解度<br>(2) 各世紀の経済学の理解度<br>(3) 経済学の主要古典の学説の理解度 |
| レポート | (1) 学問としての経済学史の理解度<br>(2) 各世紀の経済学の理解度<br>(3) 経済学の主要古典の学説の理解度 |

## ■ 評価方法

○科目試験：70%

○レポート：30%

## ■ 教科書

---

書名：経済学史  
著者名：坂本幹雄  
出版社名：創大通信教育部  
出版年：2009.4  
版：新版  
刷：  
ISBN：978-4-86302-026-9

## ■ 参考書

---

- (1) アダム・スミス、2001年『国富論』全4冊、水田洋監訳・杉山忠平訳、岩波文庫。  
(2) J. M. ケインズ、2008年『雇用、利子および貨幣の一般理論』間宮陽介訳、岩波文庫。

## ■ 履修上のアドバイス

---

- (1) 各回・各章の要点の整理、学習のまとめとして、学習指導書の演習問題を活用してみましよう。科目試験やレポート作成にも活用しましょう。
- (2) 各経済学者の語法・思考様式等は独特です。
- ① 自分が特に関心・興味を持った経済学者がいれば、学習指導書の参考文献を手がかりに、原典を直接読んでみましょう。教科書の要約とはまた異なった「作品」としての感動が得られると思います。
- ② 現代経済学とは異なるさまざまな側面が見られます。そこに温故知新の可能性もあると思います。

## ■ 自習時間

---

1回（1コマ分）90分につき120分基準により、30回（30コマ）×2時間（120分）=60時間（3600分）

## ■ 担当者のプロフィール

---

主要担当科目として、本科目の他に共通科目の経済学、専門科目の経済数学入門、マクロ経済学  
他の担当科目として、共通科目の人間教育論、自立学習入門、数学基礎、共通基礎演習